

令和7年度 英語科 授業改善推進プラン

大田区立安方中学校

Ⅰ 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

・ICT 機器とアクティブラーニングを取り入れた英語の授業で、生徒たちは着実に力をつけている。特に、単語や文法といった基本的な知識が定着し、生徒同士で簡単な英語のやりとりがスムーズにできるようになった。また、Google スライドを使ったプレゼンテーションにも慣れており、自信をもって取り組んでいる。

(2) 課題

・どの学年においても、英作文は引き続き課題である。学んだ単語や文法を正確に使って英文を作成することを苦手とする生徒が多いため、授業ではスピーチテストなどを通して、学んだ英語表現を実際に使う機会を増やす必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率(経年比較)

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第1学年	区の標準スコアよりも 少し上回っている。		
第2学年	区の標準スコアよりも 少し上回っている。	区の標準スコアよりも 少し上回っている。 (第1学年時)	
第3学年	区の標準スコアよりも 少し上回っている。	区の標準スコアよりも 少し上回っている。 (第2学年時)	区の標準スコアよりも 少し下回っている。 (第1学年時)

(2) 分析(観点別)

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
区の目標値より校内平均正答率が上回っている。	区の目標値より校内平均正答率が上回っている。	

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
区の目標値より校内平均正答率が上回っている。	区の目標値より校内平均正答率が上回っている。	

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
区の目標値より校内平均正答率が上回っている。	区の目標値より校内平均正答率が上回っている。	

3 授業改善のポイント(観点別)

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ペアワークを通じて、新しく学んだ文法を使った英語表現を練習する機会を多く設ける。また、スピーチテストを実施することで、生徒の「書く力」と「話す力」を伸ばす。	言語活動を中心に、様々なことを英語で表現できる力を身につける。	ICT 機器等を活用して、自ら学習に取り組む姿勢を育成する。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期的に単語テストを実施し、語彙力向上を図る。 またスピーチテストを実施し、話す(発表)の力を伸長する。	教科書内容や実生活に即した問題に対し、グループワークを通して様々な視点から解決策を考えさせ、判断力・表現力を伸長する。	ICT 機器等を活用した授業を行い、生徒たちの学習意欲を高め、自ら英語学習に取り組もうとする姿勢を育成する。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期的な単語テスト、音読、既習文法を活用した1問1答のペアワークを実施し、基礎・基本の定着を目指す。 スピーチテストを行い、書く、話す(発表)の力を伸ばす。	言語活動を中心にアウトプット活動に力を入れ、主に自分のことや自分の意見を英語で表現できる力を身につける。	ICT 機器等を活用して、自ら学習に取り組む姿勢を育成する。